

# 21世紀ひょうご市民学会 会報



32号

2016年9月30日

—編集・発行—

21世紀ひょうご市民学会

「神戸生活創造センター」登録番号 630

代表 澤木昌典

<http://www.hyogo21ctzn.com>

## ◇◆◇ 最近の主なできごと ◇◆◇

### ❖小林東生氏が瑞寶小綬章を受章されました！

平成28年7月1日付けで瑞寶小綬章受章されました。おめでとうございます。

### ❖冊子「生きる力」が7月に完成、会員に配布しました

### ❖3月10日（木）講演会開催

テーマ：「仏教と経済 ～私の歩んだ途をふりかえりつつ～ 講師／神戸大学名誉教授 足立英之氏

### ❖4月28日（木）第43回知的サロン開催

テーマ：リスボン地震の教訓 ～なぜポルトガルは衰退したか～ 話題提供／計盛哲夫氏

### ❖6月9日（木）第3回研究会開催

テーマ：「家族の病気」 話題提供／松原宏治氏

### ❖7月23日（土）第10回総会開催 一 於：神戸市教育会館

## お知らせ

### 1. 例会を開催します

日 時：平成28年10月13日（木）13:30～15:30

テ ー マ：今井町周辺について

場 所：神戸生活創造センター5階 ミーティングブース No. 2

### 2. 見学会のご案内

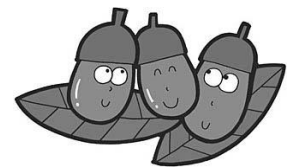
日 時：平成28年11月26日（土）

場 所：伝統的建造物群保存地区「奈良県橿原市今井町」と橿原神宮

\*詳細は後日ご連絡いたします。

### 3. 「大阪市 天王寺七坂」の見学会を企画

\*実施時期は来春を予定しています。詳細が決まり次第ご連絡致します。



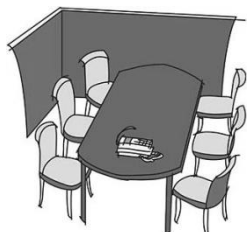
## 平成 28 年総会報告／第 10 回総会

平成28年7月23日(土)

### 「今後は研究会と屋外（見学）研修を共通テーマで」

於：神戸市教育会館 201 号室

平成 28 年 7 月 23 日(土)の好天の夏日のもと、神戸・中央区中山手の神戸市教育会館 201 号室において、21 世紀ひょうご市民学会第 10 回総会が開催(午後 1 時半～同 3 時)され、新しい事業計画などが決定されました。以下は総会の概要です。



総会は定刻の午後 1 時 30 分、松原世話人の司会で始まり、出席人数(13 名うち本人出席 5 名)を確認のち、会員数が当日現在、21 名と昨年 6 月末に比べ 3 名減になっていることが報告されま

した。続いて議長に代表世話人の澤木昌典氏を選出し、議長から「会員数は減っているが、できるだけ会員の生きる力に資するような活動をしていこう」との趣旨の挨拶があり、その後、直ちに議案審議に入りました。

第 1 号議案は平成 27 年度の会務・事業報告、収支決算報告並びに監査報告でした。このうち会務・事業報告では、「知的サロン」について、足立英之氏(前尾道市立大学学長、神戸大名誉教授)による「仏教と経済」の講演(平成 28 年 3 月)のほか、計 6 回の有意義な発表・講演があったことが報告されました。一方、「研究会」開催は 3 回に止まりました。前年まで研究してきた「生きる力」のまとめが中心であり、15 章からなる冊子がほぼ完成することが報告されました。他方、平成 27 年度の収支決算については、会費収入は会員数の減少から予算を下回りましたが、一部の会員からのご寄付により、繰越金を除く総収入は 119 千円と予算を上回りました。これに対し支出は 106 千円と、会報発行が予定より

1 回分少なかったことや、知的サロン・屋外研修が須磨シーパルでの小林東夫氏による「東播地方の方言」特別講話懇親会だけに止まったことなどから予算内に収まり、結果として次期繰越金は 523 千円と前年度を上回った旨が報告されました。次に出席監事からこれら前年度の会計については適正であったとの監査報告があり、次いで以上を内容とする第 1 号議案が異議なく承認されました。

第 2 号議案は平成 28 年度の事業計画及び収支予算の審議でした。まず事業計画の大枠については従来同様、「知的サロン」「研究会」「広報活動」の 3 本柱とするというものでした。これを具体化した平成 28 年度予算案では、会費収入等の財源は、前期繰越金を含め 583 千円とされました。一方、支出面では、そのうちの特別支出予算が修正審議となりました。同支出については、当初案では最近の研究成果「生きる力」報告冊子 100 部の概算発行費用 7 万円のみを計上していました。しかし、事業活動のうち研究会と知的サロン／屋外(見学)研修の運営方法が見直され、共通テーマのもとに一体的に活動する方が効率的であるとされました。その結果、平成 28 年度の研究会を兼ねた屋外(見学)研修は 11 月に「檀原市今井町と檀原神宮見学」(仮テーマ「古い町並み探訪」)を実施することとし、そのための概算交通費 8 万円が当初の特別支出予算に追加計上(計 15 万円に)されました。その結果、支出予算は実質 231 千円に増える一方、次期繰越金は 349 千円と前期末から約 17 万円減少しますが、「生きる力」につながる研究成果を残すことで修正予算案を全員了解し、全体として第 2 号議案が承認されました。…以下省略(文責・苗村)

## 第 43 回 知的サロン

### 「リスボン地震の教訓

### ～なぜポルトガルは衰退したか～」

平成28年4月28日(木)

於：神戸生活創造センター5階  
ミーティングブース

話題提供：計盛 哲夫氏

ポルトガルは実に不思議な魅力に富んだ国である。15,16 世紀、未知の海だった大西洋やインド洋、さらに太平洋へと乗り出して大航海時代を切り開き、大海洋帝国を築いた。ヨーロッパの西の端に位置する人口 300 万人にも満たない小さな国がで

ある。交易と植民地から得た巨万の富は首都リスボンを国際都市に押し上げ、ロンドン、パリ、ナポリと競った。街には華麗な国王の宮殿や荘厳なたたずまいを見せる教会と修道院が建ち並び、その裕福さは広く知られた。

しかし、なぜかポルトガルの繁栄は長くは続かなかった。続いて台頭してきたイギリス、オランダ、スペインにその座を譲って以来、今日に至っている。なぜ衰退してしまったのだろうか。歴史家や研究者の意見は、さまざまある。

その理由の一つに、リスボン南西沖の大西洋を震源地とする「リスボン地震」(1755年、M8.5)との関連性がある。ヨーロッパ最大のこの地震は、直後の大津波と約1週間燃え続けた大火災と相まってリスボンを廃墟と化した。地震の衝撃と津波はヨーロッパのみならず、イギリスやアメリカ、カリブ海にまで及んだ。

当時、20～27万人と推定されるリスボンの人口のうち、6万2,000人から9万人が犠牲となり、建築物の85%が崩壊した。被害額はGDPの45～65%(C.S.Oliveira)に達するといわれる。被害額に計上し難い古くからの貴重な図書や大航海時代の資料や地図、植民地から集められた財宝などかけがえのない文化的遺産も失われた。

だが、ヨーロッパ全土に及んだ地震の衝撃から、新しいものも生まれた。近代地震学やリスクマネジメントの誕生を促し、ヴォルテール、ルソー、それにカントを加えた知的論争を呼び、それが当時の世界観を変えて後のフランス革命を導いたといわれている。

ポルトガルにとってこの地震は、「世界の盟主としてのポルトガルの終わりを告げるもの」(Z.Deckker)、あるいは「間違いなくポルトガル衰退の遠因」(R.R.Dynes)となり、ポルトガル史に少なからず影響を与えたといえそうである。もちろん、地震とは直接的には関係がないという見解もある。ポルトガル史の研究者、金七紀男・東京外国語大学名誉教授は「ポルトガル衰退は地震によるものではなく、フランスの侵入、ブラジルの独立やそれに続く内乱、革命によるものだ」と解説されている。

一方、大きな歴史観を持った作家の司馬遼太郎はその著書「街道をゆく 南蛮のみちⅡ ポルトガルの海」のなかで、衰退は地震よりも前、ジョアン3世時代から始まるとして「当時のポルトガルが運営の動力として所有していたのは、冒険児と欲望が行動の源泉である人々」であって、「16世紀の独裁王がろくな下僚もビジネスの思想や技術も持たずに大植民地を運営し、維持していたのはよくやっていた

と書いていい」と書いている。このあたりの“なぜ”が、大航海時代を切り開き、大海洋帝国を築いた輝けるポルトガルの歴史で興味をそそるテーマの一つであろう。

しかし、わが国では、なぜか1755リスボン地震へのアプローチが少ないように思われる。

2世紀半も前の出来事であるからなのか、あるいはユーラシア大陸の東と西端に位置する両国の位置の遠さがそうさせるのか、その理由は定かではない。でも、わが国を西洋に紹介した最初の国は、間違いなくポルトガルであるから一概にそうもいえない。

そのリスボン地震が東日本大震災発生直後、復興をめぐる議論の中で突如としてクローズアップされた。地震、津波、火災というトリプル広域災害(東日本は原子力災害)という災害の類似性に加えて、時代の転換期でしかも経済環境の停滞期に起こったという社会的背景の共通性もある。わけても「東北の復興なくして日本の再生なし」とのスローガンと同じように、リスボン再建も大海洋帝国の国運を賭けた復興となった点もある。

こうした疑問や提案に応える解を探りながら、近未来に発生が想定されている首都直下と南海トラフ巨大地震を日本の“国難”としないために、リスボン地震とそれがもたらした影響を再考しようとして2013年春から、研究を進めてきた。リスボンを中心に現地調査も行い、専門家にインタビューを実施して、残された地震の遺構を訪ね、文献や各種の記録に触れることができた。とくにリスボン市の応援で「リスボン地震と耐性のある都市づくり」をテーマとしたワークショップも行った。

この報告が、こうした疑問に応えるとともに首都直下、南海トラフ巨大地震に備える防災・減災のシナリオづくりへのささやかな手掛かりの一つになればと願っている。



計盛 哲夫氏

## 講演会

### 「仏教と経済 ～私の歩んだ途をふりかえりつつ～」

平成28年3月10日(木)  
於:神戸生活創造センター5階セミナー室B  
神戸大学名誉教授 足立英之氏

今回、足立先生に特別に講演をお願いしました。テーマは「仏教と経済」。はじめに自己紹介があり、広島県で出生され、のちに父の出身地兵庫県多可郡で少年期を過ごされた。幼いころから毎朝叔母が

唱える御経を聞き、いつの間にか意味もわからないまま、般若心経を暗誦できるようになっていた。

仏教と経済の結びつきについて、シューマッハーの著書「スモール・イズ・ビューティフル(小さきは美

なり』(1973)のなかに仏教経済学の項がある。伝統的な経済学と違う考え方を知ったきっかけである。伝統的な経済学の考え方は、「消費者は財の消費から得られる効用を最大にするよう行動し、企業は利潤を最大にするよう行動する。労働は不効用(マイナスの効用)をもたらす」。

ケインズが予測(1930年)した100年後の生活水準は予測を実現しているが、経済問題は未解決である。理由としては所得の格差と人間の欲望に限りがないことである。フランス人経済学者ピケティは『21世紀の資本』(2013)で200年以上にわたるデータの分析から所得資産の格差の拡大を示している。人間の欲望について、欲望の進化に①食欲、性欲、物欲(科学技術の発展)②支配欲、権力欲、名誉欲③利他欲、無欲欲(宗教的段階)。

ローマクラブ『成長の限界』(1972)やレスターブラウン『プランB』(2009)などで経済成長の限界が指摘

されるなか、経済成長に肯定的な見解もある。①経済的至福(効用の上限)は存在しない。②経済成長は社会のモラルを引き上げる。

豊かさへの道は①効用最大化(伝統的経済学)、②欲望の抑制(仏教):最小限の消費で最大限の幸福を達成。①と②のバランスをとること。

最後に仏教に造詣の深い経営者三氏を取り上げられた。

沼田恵範(ミツヨの創始者):

仏教聖典の普及に尽力

加藤辨三郎(協和発酵):

40歳過ぎて仏教に開眼、在家仏教協会  
土光敏夫(石川島播磨、東芝、臨調):

熱心な日蓮宗の信徒

(以上)

## 第3回 研究会

# 「 家 族 の 病 気 」

平成28年6月8日(木)  
於:神戸生活創造センター5階  
ミーティングブース No.5  
話題提供:松原 宏治氏

家内の体調がすぐれず、今年1月市内の病院で診察を受けたところ卵巣がんとわかりました。がんだとわかった時、私も、家内も大きなショックでした。家内のがんになるなんて、考えたこともなかった。がんと聞くだけで、今にも死ぬのではないかという不安がよぎり、頭から消えませんでした。死を考えなくてはならない年になったということでしょう。人生、長生きすることが幸せとばかり考えていたが、それは誤りだと思い知らされた。一番悔しいのは家内だと思う。発見が遅く遠隔転移があり、進行期(ステージ)は4になっていた。現在、化学療法(抗がん剤治療)の標準治療、TC療法を受けている。

卵巣は女性の子宮の両側に1つずつある親指大の臓器で、卵巣にがん細胞が発生すると卵巣がんと診断される。年間6000人から8000人が卵巣がんにかかっ

ており閉経後の50歳前後と80歳前後の女性に多く認められる。卵巣は膣を通して外界とつながっている子宮と異なり、骨盤内に存在するため症状が出るのが遅く、進行して初めて診断されることが少なくない。

婦人科のがんによる死亡数 (2013年)

乳がん	子宮がん	卵巣がん
11,148人	6,033人	4,717人

(以上)

## あとがき



冊子「生きる力」を発行しました。

来春、大阪天王寺周辺の天王寺七坂の見学会を予定しています。

21世紀ひょうご市民学会 ホームページ <http://www.hyogo21ctzn.com> をどうぞご覧下さい。

ホーム(最新情報・お知らせなど)、活動内容、知的サロン、研究会、会報、入会案内など詳細が掲載されています。

